

太平洋島嶼国における 持続可能な開発

太平洋地域における 主な課題と解決策

ラジェシュ・チャンドラ
南太平洋大学
副学長

chandra_r@usp.ac.fj

www.usp.ac.fj

プレゼンテーションの概要

- 太平洋島嶼国の特徴:
国の規模が小さい、
他の国から離れている、
多くの国が点在している、
生態系が危機にさらされている、
災害の被害を受けやすい、
脆弱性が極めて高い、
他の国が取るアクションの影響を受けやすい
- 持続可能性の重要性:
太平洋地域のリーダーが課題に取り組む



プレゼンテーションの概要

- 主な課題: 共通の課題と個別の課題が共存
(多様な地域において共通の課題として脆弱性が存在)
- 今後実施可能な取り組み: 規模と条件に基づいて、共通の課題と個別の課題に対応する
- 資金の獲得と技術の問題に加えて、持続可能性は太平洋島嶼国と国際社会が共同で取り組むべき課題であり、大きな力を持つ富める国とそうとは言えない国が力を合わせて政治的な対応を行う必要がある

持続可能性の重要性

- 1972年のストックホルム会議（人間の環境の状態に関して初めて開催された国連会議）においてこのコンセプトを初めて提唱
- 1992年のリオ会議と2002年の持続可能な開発に関する世界首脳会議が持続可能な開発の重要性をさらに後押しした
- 最近の動きとして、2012年のリオ+20会議が人間の将来にとって持続可能性が重要であることを示した
- 9月1日から4日にかけて開催される小島嶼開発途上国会議は太平洋島嶼国、サモアで開催され、さらにこの問題の解決に取り組む

持続可能性の重要性

- 主要な課題に対応するためのアプローチについての合意は存在しないものの、持続可能な開発の重要性については国際的な合意が存在する
- 地球温暖化、災害の増加、資源と環境に関する問題の増加といった脆弱性が存在していることについては、全ての当事者が合意している
- 社会、環境、および経済という3つの柱に関する合意が存在する
- 開発に関する課題を新たな視点から再考し、国家の開発計画の主要課題とする必要がある

太平洋島嶼国の特徴

- 国土面積が小さく、非常に小さな規模の国家が存在する
- 広大な海と海に点在する島嶼（ハウオファによる記載）
- 経済規模は小さく、1つか2つの主要なセクターで主に構成され、生活必需品を提供するセクターの割合が大きい
- 他国からの支援への依存度が高い
- 人材の開発が進んでいない：高等教育の浸透率が非常に低い
- 輸送コストが高い

アノテ・トン大統領(キリバス)

「環礁島の地理的要因について考える必要があります。環礁は非常に小さな島を構成し、その海拔は2メートルにも達していません。そのため、ほとんどの国とは異なり、海面が上昇するとどこにも逃げる場所がありません。高台がないのです。これが、我々の国が直面している脆弱性を示しています」



2014年6月8日
Fared Zakaria GPSに出演

太平洋島嶼国の特徴： 海拔の低い環礁

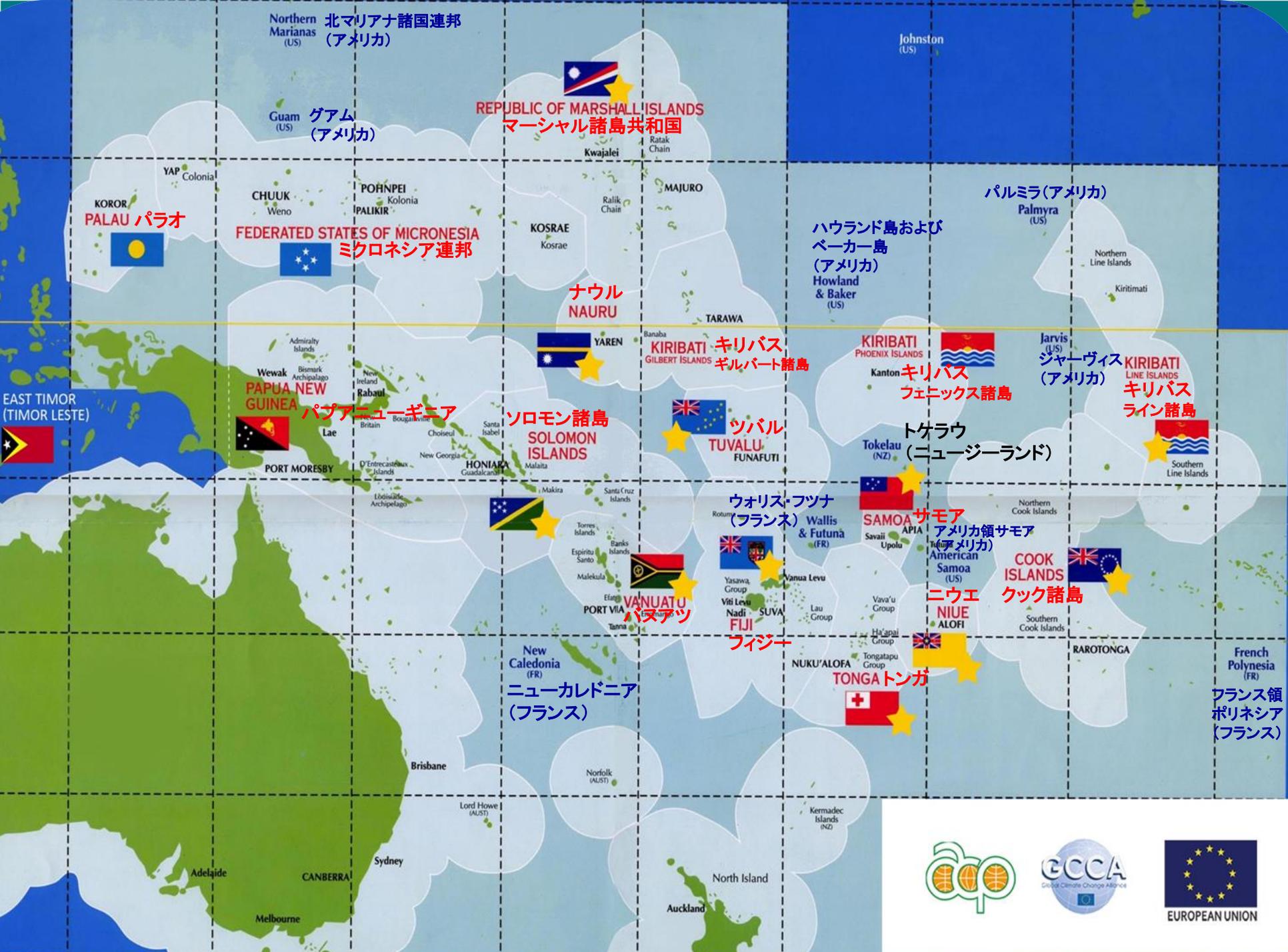


太平洋島嶼国の特徴: キリバス

島の幅が狭いため、波が島の向こう側にまで達する



19 01 2014



キリバス: 海面の上昇が、 家屋に既に影響を及ぼしている



マーシャル諸島共和国の
マジュロにおいて、キングタイド
と呼ばれる高潮の影響が発生



太平洋地域のリーダーによる 持続可能性への取り組み



- これまでの歴史において、太平洋地域の社会は常に持続可能な状態にあった
- パシフィック・プランは持続可能な開発に取り組むことを確約している(次ページのスライドを参照)
- 世界で持続的な開発に最も真剣に取り組んでいる地域と言えるかもしれない
- 主な懸案となるのは、気候変動とそれが太平洋島嶼国の存続と繁栄に与える影響である
- 気候変動は太平洋島嶼国にとって膨大なコストとなる

太平洋地域のリーダーによる 持続可能性への取り組み



「我々リーダーは、太平洋地域が平和、調和、安全、および経済的繁栄を実現でき、実現しなければならないと考えている。我々は、太平洋地域がガバナンスの質の高さ、資源の持続可能な管理、民主的な価値の完全な遵守、および人権の擁護と促進において尊敬に値する地域となることを希求する。近隣諸国およびその他の国とのパートナーシップを通じて知識レベルをさらに高め、情報発信をさらに改善し、全ての人にとって持続可能な経済を実現することを求める」

(パシフィック・プランの3ページ目、

http://www.forumsec.org/resources/uploads/attachments/documents/Pacific_Plan_Nov_2007_version.pdf)

持続可能性に関する主な課題

- 国の規模が小さく、他の国と離れているため、持続可能な開発が困難である（規模の経済のメリットがなく、適切な連携が実現できず、観光業と一部のニッチな分野を除いて競争力が弱い）
- 高等教育の浸透度が非常に低い（メラネシア諸国においては就学率は通常4%から6%程度であり、それよりも高い国もあるものの、競争力を発揮するために必要と考えられる国際的なレベルには到底達していない）
- グローバル規模の政治問題または経済問題に影響を及ぼす力が限定される

科学的な研究とR&Dの欠如

- レベルの高い適切な人材と科学的な研究開発の能力が不足しているため、太平洋地域の諸国は重要な要素に関する基本的なデータの収集から技術とシステムの適用に至るまで他国に比べ大きく後れを取っている
- 外国勢による研究と高レベルな能力に依存しすぎている

持続可能性に関する主な課題

- 気候変動による問題が、キリバス、ツバル、マーシャル諸島共和国をはじめとする海抜の低い国の存続を脅かしている
- 海面の上昇によって、飲料水の供給が危機にさらされる
- 状況を緩和し対応するための適切なリソースが一部提供されているものの、不足している
- 太平洋島嶼国の多くでは開発計画において持続可能性を主要な課題として設定していないものの、一部の国（フィジーやサモアなど）は真剣な取り組みを開始している
- フィジーの総理大臣がグリーンな成長のための首脳会議を開催（2014年6月）

持続可能性に関する主な課題

- メラネシアでは人口の増大が大きな課題となり、ミクロネシアでは人口密度が大きな課題となっている
- 人口の流出はさらなる課題となっているものの、海外からの送金によって人口の流出の影響は緩和されている
- 急速な都市化と適切かつ効率的なプランニングの欠如が大きな問題となっている
- メラネシア諸国において教育へのアクセス率が低く、太平洋島嶼国全体において教育の質が低いため、持続可能性の実現において大きな課題を呈している
- 珊瑚礁に対する悪影響によって、漁業に影響が発生している
- 食糧安全保障に関する問題と非感染性疾患 (NCDs)

海外からの投資が一貫性に欠ける

- 海外の投資家は、組織の管理体制とポリシーが未成熟な状況を不当に利用している
- 意思決定において汚職が大きな役割を果たすため、特に林業、鉱業、および漁業における持続可能性で問題が発生している
- 投資規模が小さく、大規模な海外からの投資を誘致することができない

持続可能性に関する主な課題

- 自然災害がより激しくなり、被害が増大している
- パプアニューギニア、トンガ、サモア、およびソロモン諸島で津波が発生
- フィジー、サモア、およびソロモン諸島で最近壊滅的な洪水が発生
- 国に再建に膨大なコストがかかるため、国の開発が遅れる

太平洋島嶼国における災害

「太平洋島嶼国は世界で最も災害に弱い国と言える。1950年以來、自然災害によって340万人以上が直接的に影響を受け、太平洋地域で1,700名以上が死亡したとされる(パプアニューギニアを除く)。1990年代だけを見ても、太平洋島嶼国は自然災害によって2004年の実質価値で28億米ドルの損害を被っている」

(世界銀行、

<http://web.worldbank.org/WBSITE/EXTERNAL/COUNTRIES/EASTASIAPACIFICEXT/EXT/APREGTOPRISKMGMT/0,,contentMDK:22240983~pagePK:34004173~piPK:34003707~theSitePK:4077908,00.html>)

自然災害: ソロモン諸島で最近発生した洪水



廃棄物の処理に関する問題

- 海拔の低い小さな島国では廃棄物を処理できる土地が存在しないため、廃棄物の処理が深刻な問題となる
- 廃棄物の処理に関する国のシステムは資源の保護と持続可能性を促進するための条件を提供できていない
- し尿によって水の供給と衛生状態が危機にさらされている
- 電気電子機器の廃棄に関するシステムが不十分である

廃棄物の処理に関する課題： キリバス



今後の取り組み

- 太平洋島嶼国はより主体的に持続可能性に取り組み、各国の開発計画においてこの問題を主要課題として捉えるようになっていく
- 持続可能性に対する考え方や開発方針と修正方針を変更するために、国内で大幅な変化のためのアクションを実施しなければならない
- 各国内で閉じた開発に対する取り組みから、国際社会や開発パートナーとの交渉へと取り組みを変化させなければならない
- 国の規模と状況によって解決策は異なる

今後の取り組み

- 交渉、プロジェクト管理、政策の立案と実施といった非常に重要な分野において、人材の能力開発を行う
- 南太平洋大学のような機関の活用と各国の研究開発能力の構築を通じて、太平洋島嶼国が存在する地域の研究開発の能力を大幅に高める

今後の取り組み

- 太平洋島嶼地域の大学による研究ネットワーク (PIURN) が機能し始めたことによって、研究を通じて能力開発を進める
- 太平洋島嶼地域の大学と先進国の大学の間で研究のためのネットワークと協力をさらに進めることによって、データの収集と分析、政策の実施と監視、および太平洋の島嶼のニーズに合わせたシステムとハードウェアの調整を実施する

今後の取り組み

- 人口の増大と都市化の問題に対応し、開発の機会を地理的に平等に提供することによって、地方からの人口流出を防止する
- 数千年間にわたって太平洋の社会を支えてきた伝統的な知識のシステムを活用する
- 持続可能な消費について考え、西洋式の食糧と消費を無分別に取り入れることを回避する
- 非感染性疾患への適切な対応
- 再生可能なエネルギーへの投資を増やす
- コミュニティーの強化によって、持続可能性を促進する
- 連携の強化

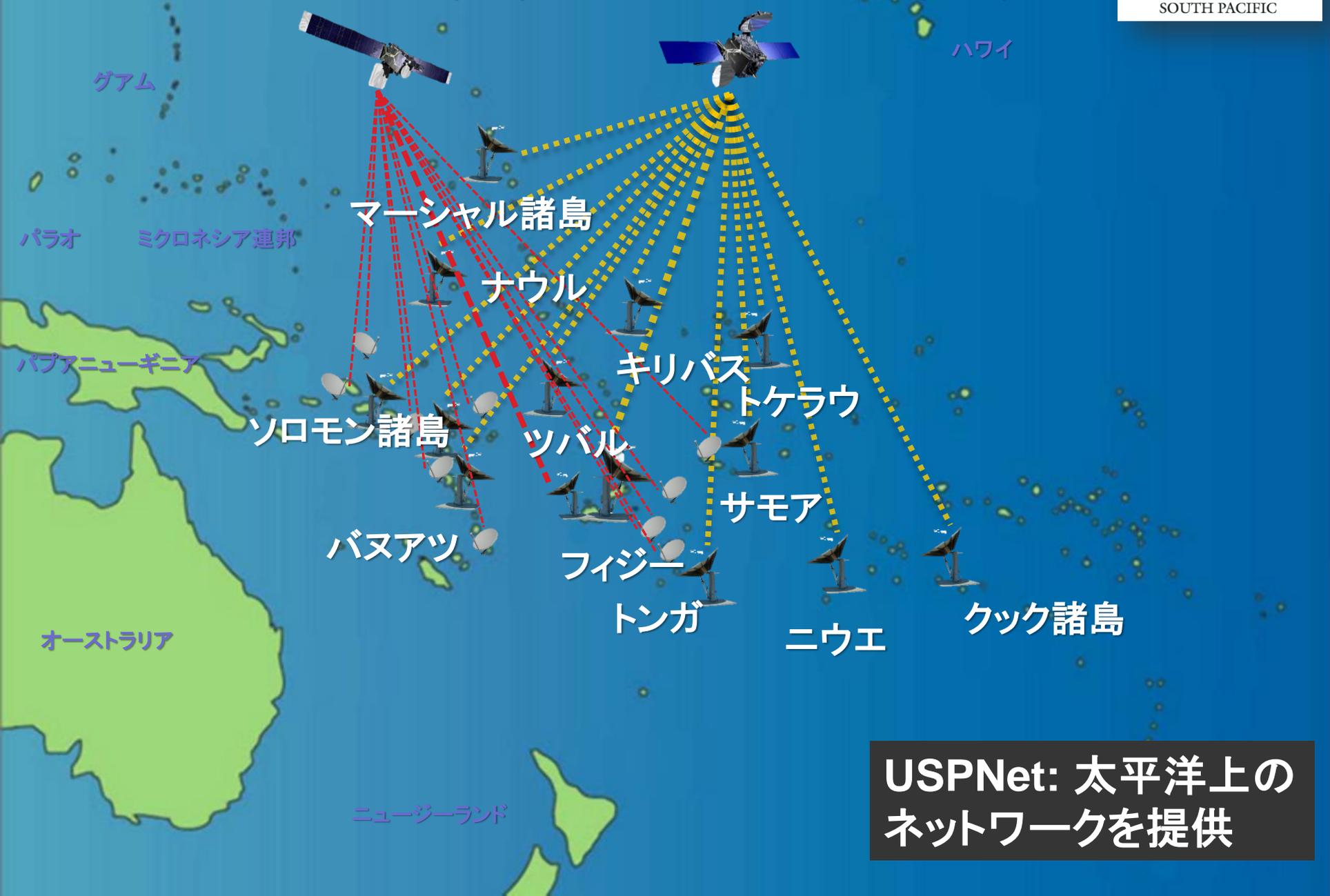
最適なパートナーとしての 南太平洋大学



- 12カ国をカバーする国際大学
- 太平洋上の3,300万平米を超える地域に14のキャンパスと11のセンターが存在
- 25,000名以上の学生を擁する
- 本大学がサポートする地域向けの卓越した通信機能によって、インターネット、ビデオ、電話、および学習システムを包括的に提供
- 既に海外の大学や研究機関と幅広い協力関係を構築済み

Kuバンドによる通信衛星(IS-18)

Cバンドによる通信衛星(NSS-9)



USPNet: 太平洋上のネットワークを提供

- 太平洋地域の社会は既に持続可能な開発に向けて真剣な取り組みを行っており、持続可能な開発は活動のDNAを構成している
- 太平洋の一部の島国の存続とその他の国のさらなる発展が、他国の取るアクションによって危機にさらされている
- 今年の9月1日から4日にかけてサモアで開催される小島嶼開発途上国会議が今後のステップとアクションを示す
- 持続可能性にプラスの効果を生み出すのは、太平洋島嶼国と国際社会の間のパートナーシップである